

2017年度 学校法人 三幸学園 東京保育医療秘書専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 高橋夕子
学校関係者評価報告責任者：西 俊治

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療・保育分野の学校として「医療・福祉・保育現場を通じて日本を明るく元気にする」「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療・保育分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

	こども	MS
三幸学園 ビジョン	人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする	
分野別 ビジョン	こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする	医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする
三幸学園 人材育成方針	素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材	
分野別 人材育成方針	皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材	相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材を育成する
目標とする 人材を 育成する ための教育	リーダーシップ、主体性、団結力、結束力、組織活性力、感動、感謝できる力、実践力、現場力、課題解決力を高め、自分で考え動ける人材を育成する教育を行う。 実践的現場力と三幸の人間力を育成する教育改革を推進する。	SSS(SANKO SUCCESS SYSTEM)の強化 小さな成功体験が自信を育み、自らの成長を促す 「早く考え動く」主体的な人材に育成するための徹底したサポート。(面倒見と過保護の違いを理解したサポート) ・明るく健康で、清潔感のある生徒を育てる教育 ・自立、主体性ある生徒を育てる教育 ・人の気持ちを理解できる(気づき、配慮)生徒を育てる教育 ・感動できる、人の喜びを自分の喜びにできる生徒を育てる教育 ・コミュニケーション力の高い生徒を育てる教育
募集対象となる 生徒像	こども好き、明るく元気で素直な生徒	人の役に立ちたいという気持ちがあれば、誰でも。
ブランド コンセプト	こどもが好きな人なら誰でも、寄り添ってくれる先生や仲間とのびのび学びながら、保育力+「好き」を磨いて、自信を持ち、子ども達の成長を見守り、笑顔を咲かせる先生になれる学校	人の役に立ちたい気持ちがあれば、どんな人でも、楽しく学びながら資格をとり、素直で協調性がある医療秘書になれる学校
教育理念	技能と心の調和	
三幸学園 ミッション	人を活かし、困難を希望に変える	

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

◎全教職員が、教育理念(技能と心の調和)と、人材育成方針(素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材を育成する)を理解し、日頃の授業や学校生活指導に反映させる。

◎三幸学園の教育“あきめない教育”＝可能性を引き出す教育の理解と実践

(1)皆精勤率目標:50%以上 ⇒ **61.6%** (保育科 51.9% こども総合 48.8% 医療秘書科 73.3%)

(2)退学率目標:6%以内 ⇒ **10.8%** (保育 18.5% こども総合学科 12.2%医療秘書科:13.3%)

(3)気持ちの良い挨拶

(4)誰から見てもきれいな環境(掃除・整理整頓)

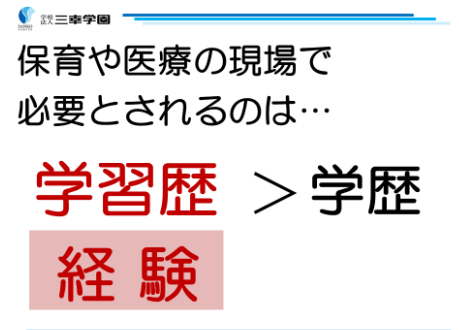
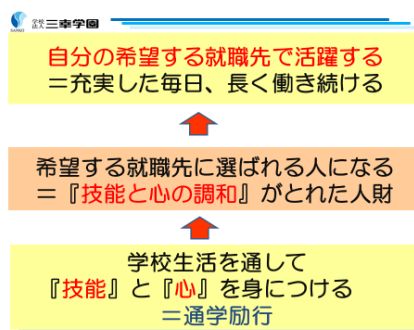
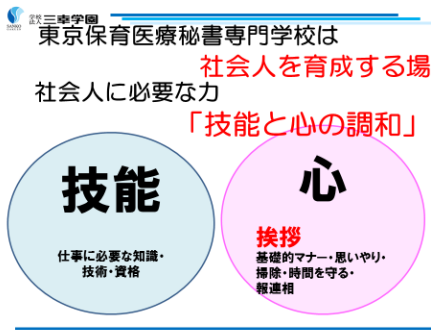
(5)授業の進め方アンケート目標 4.5 以上(5段階評価)

「この授業では開始時、終了時の挨拶が徹底できている」⇒ **4.2** (医療 4.5 こども 3.9)

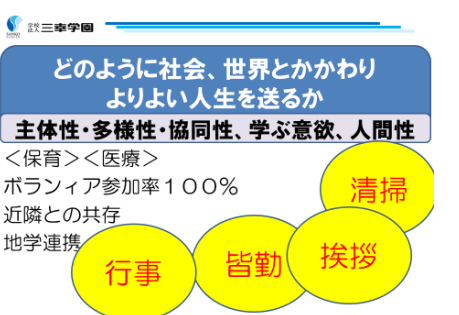
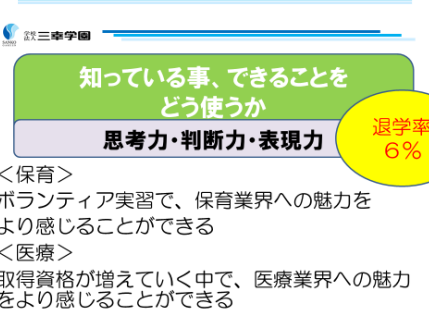
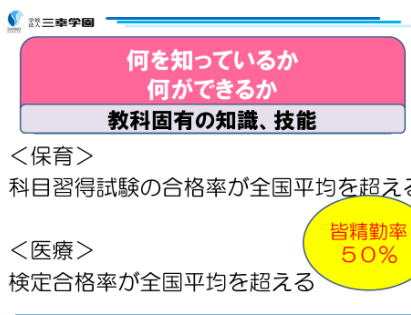
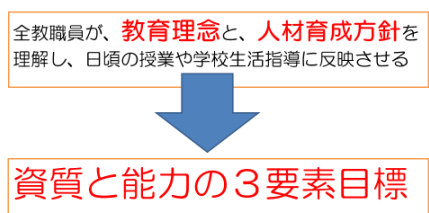
「マナー(私語・居眠り等)が守られ、適切な授業環境が作られていた」⇒ **4.1** (医療 4.3 こども 3.8)

「授業に対する先生の熱意を感じる」⇒ **4.1** (医療 4.1 こども 4.1)

「先生は私の名前を覚えてくれている」⇒ **4.3** (医療 4.5 こども 4.1)



三幸学園
平成29年度 立川CM目標



② 学校関係者評価委員会コメント

- ・今年度の退学傾向は現時点でどうなっているか(高橋委員)
 - ➡人間関係を理由に退学をしていった生徒がほとんどである(藤原委員)
- ・目的意識が高いであろう保育科の生徒の退学率が高いのに疑問を感じる(西委員)

- 序盤の退学理由として多かったのは人間関係であり、夏のボランティアに参加して職業イメージとのギャップを感じた退学した生徒もいた。秋頃になると勉強が想像以上に大変で辞めていった傾向がある(高橋委員)
- ・ 高校側からすると高校生の職業観、進路決定要因に関してはどんな意見を持っているか(高橋委員)
 - 目に見えている範囲内で選択する傾向はある。保育系の学校に進学する生徒であれば「こどもが好き」というような理由から進学することが多い。どの様に勉強して、資格を取得するのかを入学前に説明し、通える環境を整えるのも高校の役割であると感じている(島田委員)
- ・ 採用者する側からすると就職希望者の在学中の出席状況や学校からの評価は気になるのか(高橋委員)
 - 気にしているが、保育士不足により目をつぶる状況もある(渡邊委員)
- ・ 現場の保育士からすると、「なぜこんなこともできないのか？」という思いからきつくあたってしまい若手が人間関係を理由に辞めていくケースも見受けられる(渡邊委員)
- ・ 人間関係での退学に対して良い対策はないか(渡邊委員)
 - 介入具合が難しい場合が多い(高橋委員)
 - クラスとしての一体感を醸成できれば退学防止に繋がるのではないのか(渡邊委員)
 - クラスによって一体感のある・なしはあるがクラス担任を中心に努力する(藤原委員)
- ・ 男子生徒、男性職員がいることがクラスや職場の雰囲気を良くすることに繋がっているのか(西委員)
 - 職場では良い影響を及ぼすことが多い(渡邊委員)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- (1) 教育理念・目標の理解及び浸透度
- (2) 広報における地域ニーズの理解
- (3) 園・施設・医療機関との関係性をより深め、業界の動向や求める人材送を正確に捉えた学校教育への反映

② 今後の改善方策

- (1) 運営メンバー…教職員全体に広めていけるだけの理解を高める研修の実施や、日々のコミュニケーション内でも意識教職員全体…全体会議での周知、日々の教職員のコミュニケーション
- (2) 高校訪問や地域連携、地域広報室からの助言を参考に取る
- (3) 積極的な関係性構築を目的とした継続的な訪問及び実習実績を残せるような実習指導の実施

③ 特記事項

- ・ 教育方針、目標等の視覚化(ポスター掲示・あきらめない教育本配布など)
- ・ 年3回の全体会議(全講師会)の実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・三幸学園として確立されているものがあるので自己評価は高くなっている(高橋委員)
- ・西東京、多摩地区の高校とのつながり、信頼関係の構築についてはどうか(高橋委員)
 - ➡多摩地域の特徴として、老舗学校・地元進学の傾向がある。当校は新設校のため、高等学校から信頼を得るためには、まずは資格・就職で実績を積み重ねる必要があると思われる。(近藤委員)

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

①課題

- (1)コンプライアンスへの意識向上
- (2)学校運営全体とした理解及び浸透

② 今後の改善方策

- (1)コンプライアンス研修の実施(9月予定)
- (2)積極的な情報公開及び方針の打ち出し

③ 特記事項

- ・シラバス、教材などは、分野別に格納フォルダがあり全国共通で確認ができるシステム
- ・就業規則や給与規定等は、ポータルサイトより確認
- ・年2回(ビジョンミーティング、サマーセミナー)、三幸学園全職員が集まり、組織の方針を聞き、部門運営に反映
- ・月1回の責任者会議では、理事会のフィードバックを受け、部門運営に反映

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就業規則は誰でも閲覧できる状態にあるのか(西委員)
 - ➡契約形態関係なく誰でも閲覧可能である(高橋委員)
- ・個人を評価する制度はあるのか(西委員)
 - ➡60度評価という職員同士が年次関係なく評価をし合う制度がある。また結果に関しては面談を通してフィードバックを行い、課題設定まで行っている(高橋委員)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- (1) 教員の指導ラインの統一
- (2) 入学後のギャップ

② 今後の改善方策

- (1) 積極的な授業見学・教科会の実施
- (2) 2019年度に向けて教育課程変更予定

③ 特記事項

- ・年3回の全体会議(全講師会)の実施
- ・授業見学月間の実施(フィードバック方式)

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- (1) 退学率低減
- (2) 卒業後のキャリア形成の把握(学園全体)

② 今後の改善方策

- (1) 教育課程の見直し(2019年度から予定)
- (2) 卒業生に対し、同窓会組織「Sanko Link」の認知拡大

③ 特記事項

- ・Sanko Link リーフレット配布・ツイッター更新・10周年毎同窓会実施・卒業直近の同窓会の実施
- ・卒業生就業定着アンケートの実施(教育開発部より)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生との繋がりを強化することで、OB・OG 訪問など在校生にとってもメリットがあるのではないか(西委員)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

① 課題

- (1) 卒業生の支援体制強化
- (2) 委託訓練生受け入れ体制の充実

② 今後の改善方策

- (1) 卒業生に対し、同窓会組織「Sanko Link」の認知拡大
- (2) 在籍中の委託訓練生の進級・卒業実績つみ、且つ委託訓練生の成功事例を体制に反映

③ 特記事項

- ・スクールカウンセラー「ほっとルーム」の設置
- ・スクールカウンセラーによるプチ授業の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・潜在保育士と新卒者を比較した際、現場からするとどちらのニーズが高いのか(高橋委員)
 - 潜在保育士の方が即戦力となるので求めているが、パートタイム勤務希望者がほとんどなうえに募集をかけても集まらない(渡邊委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	2

①課題

(1) 防災・安全管理に対する体制整備

② 今後の改善方策

(1) 防災訓練の実施・防災避難マップの作成

③ 特記事項

- ・こども分野海外研修(アメリカ ロサンゼルス)毎年全国合同で100名前後の参加
- ・医療分野海外研修(アメリカ ロサンゼルス)毎年実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・防災に対して事業所ではどんな取り組みをしているか(高橋委員)
 - ▶通信制高校なので一斉に行う避難訓練は現実的ではない。避難経路などの視覚的な周知やクラス毎での周知を行っている(島田委員)
- ・防災マップは共同で作成すべきではないか(島田委員)
- ・建物自体が新しいので外に避難することだけが正解ではないという認識は持った方が良い(島田委員)
- ・月に一度は避難訓練を行っており、非常食の備えも十分にある(渡邊委員)
- ・職員用の防災グッズは準備しておいた方が良いのではないかと(西委員)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

新設校として認知度に課題がある他、地域のニーズに合わせた募集活動の実施

② 今後の改善方策

高校訪問や地域連携、地域広報室からの助言を参考に取り組む

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・今年度の募集活動は順調か(西委員)
 - 想定よりは厳しい状況である。特に保育分野が苦戦している(近藤委員)
- ・メディアにおける保育士の露出が少ないことが影響しているのではないか(島田委員)
- ・募集活動における地域のニーズに答えられているか(高橋委員)
 - どのようなニーズがあるのか情報としてまだ得られていない。(島田委員)
- ・近隣の競合校の状況はどうか(島田さん)
 - 医療・保育ともに目立って募集が好調な学校があるとは耳にしていない。短大の人気は一定数ある。(近藤委員)
- ・企業であれば新しいエリアや新分野に進出する前にマーケティングを十分に行い、その後検証、改良を行っていくが御校の場合はどうか(西委員)
 - 企画広報部を中心に勝算があると見込んで設立はしているが、検証や改良といった部分はまだまだ十分にできていない状況であるので今後の努力を要する(近藤委員)
- ・学校名を知るきっかけにはどういったものがあるのか(西委員)
 - 姉妹校への来校時に設立の事実を知った高校生もいれば、高校の進路指導室から情報を得る高校生もいる。もちろん自分自身でHPや進学情報誌から情報を得て来校する方もいる(近藤委員)
 - 更に分析を進めれば裏付けのある販促、募集活動に繋がるのではないか(西委員)
- ・入学者は御校のどこに魅力を感じて入学するのか(渡邊委員)
 - 学校の雰囲気、在校生と教員との距離感に魅力を感じる来校者が多いように感じる(高橋委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	2

①課題

(1) 自己評価結果の公開

② 今後の改善方策

(1) 公開予定(8月中)

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

積極的な公開講座の開催、地学・教育連携の向上

② 今後の改善方策

- ・担当者の明確化及び強化
- ・保育専門科目講師による公開講座の検討
- ・地域に向けた施設の積極的な貸し出し
- ・保育士キャリアアップ制度研修の実施

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・専門学校だけでなく、学園として様々なカテゴリーを有している事実は地域の方にとっても安心材料となる(西委員)
- ・自己評価を行い、改善を図ろうとしていること自体が地域への貢献姿勢と言えるので今後も継続して欲しい(西委員)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・平成29年度自己評価の報告に対して、委員の方々から承認をいただきました。
- ・平成30年度の目標として、全教職員が教育理念である「技能と心の調和」及び人材育成方針を理解し、日頃の授業や学校生活指導に反映していくことの必要性も再認識いたしました。
- ・教務面においては、退学率低減に向けた取り組み(教職員のサポート、保護者様との連携、カリキュラムの見直し等)をより強化していきます。
- ・広報面においては、地域からのニーズを理解し、引き続き広報活動に反映させていきます。
- ・完成年度を迎える学科については、実習や就職実績に結びつく指導をより強化していきます。